

川越政

# 力点は独自商材の開発

## 生地販売経験者も募集して

中堅生地商社、川越政(大阪中中央区)は今後、生地と製品の両事業で独自商材の開発に力を入れる。これまでも生地と製品の両事業で独自商材の開発に力を入れてきたが、今後はシリウス化やブランド化を強く意識しながら会社を代表するような商材を開発していく。製品事業でも同様に、独自開発と提案を強めてOEMからODMへのシフトを進める。独自商材の開発、ブランド化とともに生地輸出の拡大も目指す。2017年度上半期(4~9月)の同事業実績は米国向けを軸に16年同期比2倍、15年同期比12倍ペースの伸びを見せており、今後「日本の地方都市と合わせ、拡大の余地はまだある」として拡大を狙う。

17年度上半期はいずれの事業も好調で、生地販売では輸出のほか九州など地方都市も伸びた。一方、本社を置く大阪地区は伸びておらず、40歳までの生地販売経験者を募集するなどして入れ直す。過去最高売上高更新(大阪市中央区)の2017年4~9月期

中堅生地商社、川越政(大阪市中央区)の2017年4~9月決算は、売上高が前年同期比25.6%増となり創業以来最高を更新、各利益も軒並みの拡大を目指す。具体的には、従来の問屋を介した流通網のほか、大手のアパレルとの直販の拡大にも力を入れる。製造業者に対し、きめ細かい技術指導を提供するなど、連携を強化し

管理費と営業外費用が減少し、増益となった。今期から社内にて設けた五つのプロジェクトチーム(PT)の一つ、「経営対策チーム」による諸経費圧縮運動が効果を発揮した。増収には生地販売、製品OEM両事業の好調が加し、人件費も昇級などで1.3%増えたが、販売

が、環境規制強化で「プララント」が操業していない」と言う。CPL中間原料のシクロヘキサノン(以下「シクロ」)は、不足に陥り、価格が急騰している。冬物衣料用途のナイロン糸が需要期に入っており、値段が高くなるため「先行きは不透明」とする。

シノパックは11月の仮価格を、さらに高い1万7200円(約20300円)で打ち出しており、上昇はさらに続きそうだが、需要期は12月末で一段落するとの見方だが、旧正月前後の需要増もあるため「先行きは不透明」とする。

日東紡は、赤字が続く繊維事業のてこ入れのため、スポーツ向けなどを主力の芯地販売が国内

み拡大した。川越政社長によると今期は定年社員が3人いたものの新卒3人を補充してスタート。売り上げ原価は中国縫製工場の工賃上昇などで29.2%増加し、人件費も昇級などで1.3%増えたが、販売

とが、統騰につながっている。スプレッド(アジア契約価格)については、原料であるベンセンのアジア契約価格が9月比15%減の7955円だったため、1305円となり、9月に比べ295円も拡大した。シノパックは11月の仮価格を、さらに高い1万7200円(約20300円)で打ち出しており、上昇はさらに続きそうだが、需要期は12月末で一段落するとの見方だが、旧正月前後の需要増もあるため「先行きは不透明」とする。

### CPL価格 10月契約は2100ドル

#### 需給逼迫つづく

ナイロン原料カプロラクタム(CPL)の価格は需給の逼迫(ひっ迫)が続く3カ月続騰した。宇部興産の10月アジア契約価格は1ト当たり2100ドルだった。9月に比べ280ドル増と、100ドル上がった9月の上昇幅をさらに上回った。衣料用原糸が需要期にある一方で、中国メーカー大手の供給力が環境規制強化や川上原料の絶対的な不足

が、環境規制強化で「プララント」が操業していない」と言う。CPL中間原料のシクロヘキサノン(以下「シクロ」)は、不足に陥り、価格が急騰している。冬物衣料用途のナイロン糸が需要期に入っており、値段が高くなるため「先行きは不透明」とする。

9月連結決算は売上高59億円(前年同期比12.2%減)、営業利益2億7600万円(46.4%減)と2桁%の減収減益だった。投資事業組合運用益1億2900万円を計上したものの、経常利益は

ユニニカトレイディング オリンピックに焦点 14日から東西でユニフォーム素材展

ユニニカトレイディングが14日から東西でユニフォーム素材展を開催する。今回は「東京2020オリンピック・パリオリンピック」に焦点を当て、新たに注目される市場や方向性を提案し、2018年シーズンは昨シーズ

ユニニカトレイディングが14日から東西でユニフォーム素材展を開催する。今回は「東京2020オリンピック・パリオリンピック」に焦点を当て、新たに注目される市場や方向性を提案し、2018年シーズンは昨シーズ

0.4~4%増)だった。(短信既報) グラスファイバー事業部門の原織材、機能材、設備材の各事業で取り組んだ営業強化と原価低減が奏功した。繊維部門は

ユニニカトレイディングが14日から東西でユニフォーム素材展を開催する。今回は「東京2020オリンピック・パリオリンピック」に焦点を当て、新たに注目される市場や方向性を提案し、2018年シーズンは昨シーズ

0.4~4%増)だった。(短信既報) グラスファイバー事業部門の原織材、機能材、設備材の各事業で取り組んだ営業強化と原価低減が奏功した。繊維部門は

ユニニカトレイディングが14日から東西でユニフォーム素材展を開催する。今回は「東京2020オリンピック・パリオリンピック」に焦点を当て、新たに注目される市場や方向性を提案し、2018年シーズンは昨シーズ

力レト展 登録60周年と、毛布の日